

# SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 2

昭和60年3月15日



泉北鶴谷台3丁目地

## SADA新春の講話と懇親のつどい

新春1月19日、堺市から商工農政部明渡利家理事をお招きして、講話と懇親のつどいを堺市勤労会館で開催した。当日は会員・賛助会員の皆さん32名が出席し、午後5時から1時間、21世紀を迎える堺市のビジョンをご自身の体験をまじえて明快に語られる明渡理事のお話に熱心に聴き入り、続く懇親の小宴では久びさに賑やかな歓談のひと時を過ぎた後、午後8時散会した。

### ■「堺21世紀の都市づくり」講話要旨



明渡理事

今日は、堺市の中で私がかかわっている「21世紀の都市づくり」プランの一端についてお話しし、皆さん方の何かのお役に立てば幸甚と考える次第である。

現在私が直接担当している整備計画に、62年の地下鉄乗り入れ時

中百舌鳥にオープンする「南大阪地場産業振興センター」がある。この名称は、堺に古くからある刃物・敷物・自転車・線香・晒等の特産品を想像させるが、振興センターをOA機器・ビデオテックス・映像設備など先端的なテクノロジーを装備した施設による「産業と市民の交流の場」にするということが、計画の大きな柱となっている。

堺以南の伝統産業には、和泉の綿布・人造真珠、泉大津の毛布・毛織物や、河内長野のつまようじなどがあり、堺の前記特産品を含めていずれも歴史の古いものであるが、これからの産業の主流になるものが見当たらない。

大阪府でも、新空港開設もふまえてこれからは、南大阪の時代が来ると位置づけているが、企業の側から見ると先端的な産業の立地条件としては高い地価が大きなネックとなり、交通・通信手段の発達にともなって、逆に今ある工場をもっと土地の安いところへ移そうという動きさえあって、何らかの産業政策をたてて行かないと南大阪の地盤沈下はさらに進む傾向にある。それを防ぐには計画的な都市

整備が前提になると考えられ、そこで行政の仕事が非常に重要になって来る。このような問題意識にたって、昭和64年の「堺市制100周年」を中心とした21世紀へ向っての街づくり「堺市21世紀計画」が進められているのである。

まず、街づくりを進めるに当たっての問題意識から入るが社会情勢の変化を如何に把握し、予見するかが大きなポイントである。

振り返ってみると、高度成長期には産業を振興し人口を集中させようと全国的に工場誘致競争が行なわれた時代であり堺市も企業に対する税の優遇措置をうたった条例を設けて臨海に新日鉄はじめ多くの大企業の誘致に成功した。その後40年代に入ると、社会情勢が変わって来て居住の中心も大阪市内から周辺に移動しはじめ人口のスプロール現象が急速に進んだ。堺市も大阪のベッドタウン化し、急速過密化状態により道路・上下水道・学校等の建設に膨大な金がかかり、一転して全国でも最も厳しいとされる「宅地開発指導要項」等の人口流入抑制策を打ち出した結果、一方では地価高騰と相まって産業立地をも抑え、現在の地盤沈下現象をもたらした。50年代の安定成長期に入ると、抑制策によって企業や住民の活力が沈滞し、市の税収の伸びも鈍化して街に活気がなくなって来た。現在では街の再活性化をはかるため「宅地開発指導要項」を規制緩和の方向で修正に着手している。

このように社会情勢によって都市問題の起り方が異り、行政の対応も変転して来たのであるが、今後の街づくりについては、人口も産業も適正な規模とトレンドで徐々に成長し、それに見合った基盤的な都市整備が進められるような方策がとられるべきである。長い目で見ると、都市の街づくりには「ビルト・イン・スタビライザー」といわれる自律安定作用が必要であり、この力を社会情勢の変化に合わせてうまく働かせて行くための「修正」が重要な役割を果たす。その軌道修正のエンジンに点火するには「きっかけ」(インパクト)が要るが、この「きっかけ」づくりには

民間企業や市民個人ではなく行政の力が必要となって来る。

堺市としては、新市長が掲げる「21世紀にはばたく都市づくり」というスローガンを一つのきっかけとして、その中でいろいろな行政としてのインパクトを考え、与えて行こうとしている。それには思い切った発想の転換が必要であり、行政マンとしては、一日一日を発想の転換で勝負している皆さん方デザイナーを見習わなければいけないと思う。

私どもは住民の生活レベル・社会意識の絶え間ない変化を前提にしながら計画を進めているが、近年とくに行政に対する住民の気持・感覚・価値判断が今までとずいぶん違ってきており、行政の対応はより複雑に、よりコスト高になる傾向にある。良い悪いは別として、このような社会意識の現状を十分に認識した上で、民間のやるべきことと行政のやるべきことを見直し区分けして、公共事業を重点的・効率的に進める行政政策をたてて行かなければならないと考えている。

さて、「堺21世紀計画」としては、「広報堺」元旦号にもあるように、大小路シンボルロード整備事業・中百舌鳥副都心構想・旧堺港周辺地区の整備計画・大仙公園の整備・泉北の障害者福祉エリア等の中期計画をベースとして、昭和64年の市制100年から21世紀にわたる長期的な街づくり構想のもとに、基盤的な都市整備事業を行政として進めて行くが、その後の個々の整備や活動については、できるだけ民間に任せるという発想である。民間活力の導入ということになると、たとえば62年にオープンする中百舌鳥の「南大阪地場産業振興センター」は、エレクトロニクス技術を駆使した施設となるが、その中にイベントや展示会もできる多目的な装置を備えた国際会議場をつくって、人と物の集まる南大阪の拠点にし、民間主導による街の活性化をはかろうとしている。

都市の基盤整備の面からみると、大阪市は過去100年の間に、下水道も道路舗装も100%近く完成させた結果、現在、駅前再開発・副都心計画など地上にどんどん建物や施設をつくることができるが、堺市は下水道普及率34%、道路も郊外では未舗装地区が多く、今後も基盤整備を続けながら、一方で21世紀計画の事業を進めて行かなければならないという現状である。堺市のこれまで進めて来た事業の中で、外部からも評価され、誇ることもできるものに大仙公園の整備がある。ここで来年5月、第37回全国植樹祭が天皇陛下ご臨席のもとに開催されることは、堺の街づくりの将来にとって、まことに意義あるものといえよう。

「堺21世紀計画」は、今後、昭和61年の植樹祭、62年の地下鉄開通と地場産業振興センターの開設、64年の市制100年など一連のエポックを基本路線にして事業展開をはかって行くが、施設・設備機器などのハードウェアもさることながら、そこで展開するソフトウェアの開発が非常に重要になって来る。その点からみても、私どもは、ソフトの新しい展開を日常の仕事としているデザイナーの皆さんのアドバイスやご指導を得ながら、堺の21世紀の街づくりを進めて行きたいと考える次第である。

(文責 広報委員 桑原)



## アメリカの働く女性

小田 順子

—大阪府海外デザイン調査団に参加して—

昨秋久しぶりに旅をした。旅というより仕事という方が適当だろう。大阪府がデザイン振興策の一環として制度化している大阪府海外デザイン調査団に参加した。この調査団は毎年調査対象地域を変え、世界各地におけるさまざまなデザイン活動やデザイン事情について生活レベルでの調査を行うのが目的で、今年は始めて女性デザイナーが編成された。

これは女性の視点の需要が近年社会、経済市場においてますます高まってきたからである。現在もっともタイムリーなテーマとして「働く女性の24時間」という切り口を設定した。つまり働く女性の24時間を彩るグッドデザインアイテムということである。それは今回の主な調査対象国がアメリカ合衆国であることで、ニューヨーク、シカゴそしてロンドンにもおとづれた。

アメリカの現在の一般的な状況は周知の通りであるが、21世紀の先までアメリカ社会を支配していくとみられるアメリカを変える10の動きとしてあげられる項目の一つに「めざましい女性の進出」がある。今回のテーマのモデルとして登場していただくのは弁護士として事務所を持っている女性で、私達にとって最も興味があったことは、職種や経験はもちろんだが更に彼女が一家の経済をにないハズバンドが家事をしていることである。理由は彼女の方が社会的に収入が多いからということだ。それは実に合理的な決断であると彼女はいつている。ハウスハズバンドは日本でも聞いているが、アメリカでは薬々として実行されている。

### ■アメリカの働く女性達の家庭訪問

家庭訪問の対象は今回のテーマにふさわしい30才台、40才台、50才台の3名の女性である。米国の先物である金、銀、銅などの業種を扱っている経理士のスーザン・メイヤーさん、ご主人がアーティストでロフトの住人であるYWC Aの幹部、レノール・パーカーさん、ジュリアード音楽

院を卒業し、モデルをしていたという美人で、現在はTV局ディレクターのマリエ・スカーシアティさん。

いずれの訪問先でも挨拶をすませるとティーかコーヒーかと聞かれる。すぐ用意をするからその間に部屋を自由に見て下さいとってくれる。前から依頼していたとはいえ気易くどこまでも見せてくれた。大体アメリカ人は友人を招くと部屋を見せる習慣がある。見ながらカメラをパチリパチリ、その間にお互いのコミュニケーションが深まり初対面とは思えない親しさを感じてくる。出されたティーやコーヒーは自分で自由にとって召上って下さいという。スプーンは一枚の紙ナフキンに人数分のもが並べてあるだけで、受皿もなくいたってカジュアルである。中には欠けたカップもあった。一軒では紙ナフキン一枚の上にクッキーが並べられていた。このような接し方はかえって人の心を軽く、フランクに対応できるムードを作りあげていく。彼女達の生活レベルは、パーカー女史を除いて特に日本の私達と変わりはない。とはいえ独身者としての住居空間の広さは論外であるが、3人に共通していたことのひとつに、日本でいう食器棚が見当らなかった。それも厨房を広く見せていた原因だろう。私達に出されたコーヒーカップは、前述のように整えられたセットではなく、日頃使っているものを人数分集めたものであった。洋風の生活になったという日本人の生活感覚で食器の持つ意味は、純日本料理のそれとは比較にならないとしても、かなり大きなウエイト



調査団のメンバー

を占めている。日本人の生活では衣類も同様に死蔵されている。分量が多くそのため生活空間がなく、壁がなくなり文化のない生活をしているように思われる。それにしても雑誌等に紹介されているアメリカ人のパーティのためのテーブルセッティングなどは、少なくとも一般的にというより働く女性にとっては特別な場合か、趣味であるという人々のものといえそうだ。キッチンですっきりさせているもうひとつの理由にカラフルなプラスチックがほとんど見られなかったことである。シカゴの全米家庭用品展に展示されていたようなパステルカラーのフライパンなどはどこに収納されているのだろうか。彼女達は日々の生活の中で、多くの物を持ちすぎない訓練が出来ている。私達日本人特有の衝動買いは物の持ち過ぎとなり、そのための精神的負担は予想以上のものがある。総じて日本人と比べると物に対するウエイトよりも、人間関係や文化その他への出費の多さが伺える。独身のスーザン・メイヤーさんはこう語った。月曜日は友人が家に来るので料理をつくる。水曜日はオペラ観劇、木曜日は絵を書く。週末の金曜日からはロングアイランドにある彼の家ですごすのだと。一般に長いバカンスもそのライフスタイルを示す大きなものの一つといえるだろう。来客への対処についても特筆すべきだろう。



スーザン・メイヤーさん



ソーホーのロフト



マリエ・スカーシアティさん



ロフトのレノール・パーカーさん

欠けたコーヒーカップはもちろん、私達のための整理整頓の様子はない。花を生けたりもしない。日頃の生活をどうぞ自由に見てくれという訳だ。もちろんそれが目的ではあったが、彼女達はそれを特別配慮したわけではなく、自分の生活のペースを自分の意志以外では乱さない確固たる

ものが支配している。それはファッションにも現われていて、画一性はほとんど見受けられない。また外観のファッション性によって人の内容まで判断するような軽はずみ行為は無いといえるようだ。このようなことについては、ロフトに住むY W C Aの幹部であるパーカーさんがおしゃれに関する質問に答えてくれた。これから仕事をして偉くろうとする人は気を配り努力をするが、一応の地位ができてえらくなってしまえば服装にそれほど気をつかわず、仕事に熱中するそうである。この場合の服装に対する気くばりは決してファッション性ということではなく、ベーシックである。アメリカの働く女性の素顔にふれて学ぶことが多く、また人間的な活力あるニューヨークの魅力はどこから?と考えている。(大阪府立貿易館提出レポートより抜粋)

## 企業が創る

宇宙時代のプラネタリウム「ミノルタインフィニウム」

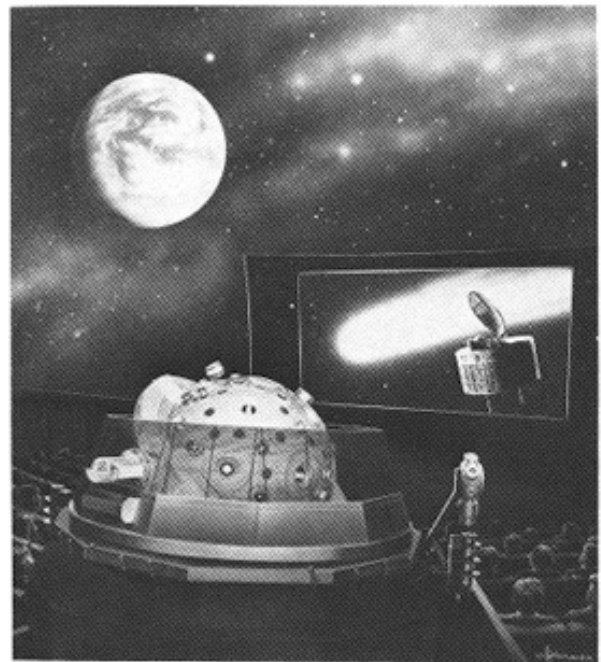
ミノルタカメラ株式会社

“ロマンチックな星空” 過去こういう表現が多用されてきましたが、これはあくまで地球上からながめた星空のことです。もし地球を飛び出して、他の惑星からながめたとしたら、夜空は一体どのようなものなのでしょう？ハレー彗星に乗ってながめる宇宙とはどのようなものなのでしょう？

このたびミノルタが開発した「ミノルタインフィニウム」は、その名の如く、無限に広がる宇宙へ、時を超越して飛び出し、他の天体からダイナミックな夜空のパノラマを觀賞できるようにコンピュータコントロールが組み込まれています。「獨創性」満ちあふれる商品を通じ、人々の情操と利便の高揚に貢献することをモットーとしてきたミノルタのオプトメカトロニクスの歴史の結晶です。

この「ミノルタインフィニウム」は、“科学万博—つくば 85”の政府出展施設つくばエキスポセンターの中にある“コズミックホール”に設置されます。直径25.6メートルという世界最大のドーム内に投映される23,000個にのぼる

星たちが、観客を悠久の宇宙の旅人にするでしょう。



## ズームアップ

堺の獅子像

坂下 順二

古来、砂漠地帯においては、水を制するものが、国を制するということから、噴水や池や建築などに王権のしるし“獅子”を飾ったといわれ、これより獅子と水の関係が生れたという。この堺の公園の片隅に、半身砂に埋もれて、落日に向って吼えている、都会のオアシスを守る獅子像にも、そんな想いが込められているのか、はたまた、中国より伝わったとされる狛犬（高麗犬）の流れをくむものなのか？多分、そんな深い意味もなく、この公園に据付けられたのかも知れない。

しかし、イメージの世界は、止まるところを知らず、その奇異な姿から、幾千kmの時空間を越えて、精神をトリップさせてくれる。

オアシス……木陰……スフィンクス……王者ファラオ……シーザーとクレオパトラ……そしてアンソニークインの

“砂漠のライオン”。我に返ると、ザビエル公園の片隅で、聞えて来るのは砂漠の風の声ではなくて、子供達の歓声ばかり。



---

 堺・今・昔
 

---

堺 春 慶

老 健 一

あまり聴き慣れない「堺春慶」ですが、伝統工芸がさいきんの本物指向によって見直され、しづかなブームとなっているとき、春慶塗は透明で手軽く、漆器のもつ重量感が少く、現在生活となじみ、若い人達に人気がある。とある漆器店主の話でした。



飛弾春慶「忘れな盆」

今から約600年前、足利義満が金閣を建て、世阿弥が花伝書を著わした応永の頃は木の加工にノコギリ・台カンナ

が発明され角材の柱がはじめて使われるという、その頃は技術革新で活気のある時世でありました。

当時、和泉国、堺の漆工、春慶が漆に透明度を増やす工夫をし堺春慶の名声を得たようであります。しかし、春慶その人については詳しく伝えた記録はありません。

この春慶塗が200年後の慶長の頃、飛弾国、高山城主、金森重近（宗和）がお抱え塗師、成田三右衛門に淡褐色の透明塗の折敷を作らせ、鮮やかな木理の見える漆塗が好評で、茶席で重宝されたと伝えられています。飛弾の漆工、山打三郎は延宝の頃、出羽国、能代に春慶塗を伝へ秋田春慶がはじまり、さらに木曾の良材を紅く染めた木曾の紅春慶、日光春慶、伊勢春慶、青森の白子春慶など全国至るところにある〇〇銀座のように、それぞれの地名に春慶をつけていますが、堺の漆工、春慶がそのルーツであり、もののはじまり何んでも堺の一例といえないでしょうか。

---

 E - スポット
 

---

「ピエトロ・サンタ・グロット」

上野あきらのたまに行くならこんな店ノ

堺は阪堺線の大小路駅近く、サンハイム宿院1Fにある★ピエトロ・サンタ・グロットを御紹介します。ではマスターから順にメッセージをよろしく、どうぞ……。

マスター：ピアノの調べをバックにさりげない品位、ファッション感覚。ヤングから熟女まで心美人を揃えています。落ち着いて語らい、おいしくお酒の飲めるお店。堺に居ながらにして銀座のムードが楽しめます。

店 長：人生すべて夢芝居……歌舞伎から前衛まで…。

彰 代：当店きっての熟女。貴男好みの女だと思いの。

けい子：健康優良児の私。一目で私がかかるわ。

照 美：チャームポイントは、目とバスト。新人です。

裕 子：いい女になるために只今勉強中。スタイル抜群。

ゆ か：ゆかは磨けば磨く程美しくなります。貴男次第

麻衣子：当店のマドンナ、セクシーレディよ。

ピアノの先生：ピアノを弾けば右に出る者ナシ。一度私の伴奏で唄ってみませんか？

あきら：黒を基調にしたモノトーンのインテリア、シンプル、スマート、シック。たまにといわずに機会を作って是非……。ピエトロがSADAの交流サロンになる事を期待しています。

住所：堺市甲斐町西1-1-28 電話：(0722) 21-2594

**PETRO・SANTA  
GROTTA**

### 賛助会員のプロフィール

#### ■アルス刃物製造株式会社

生產品目＝園芸刃物、一般刃物、セラミックス刃物。先日阪堺線に乗る為駅に立ったが一向に電車がこない、次第に心配になってきたが時刻表のあるのに気づきあと数分で来ることが分って安心したが人生にも同じ様なことがある。ふと自分を見失う時があるがそれは信念がないからで、そんな時こんな言葉に出合って力づけられる。「徳は才の上にある」先日川崎理事長が運のいい人は良いデザインをすると言われた意味も此の言葉の中にある様に思う。幸せになりたいと思うだけでは幸福にはなれない、大阪へ行きたいと思えば大阪行きの電車に乗るしか他にない。

(代表取締役 滝川重次)

#### ■株式会社和泉利器製作所 堺刀司印料理庖丁製造卸

30年程前の事でした。北欧のある有名デザイナーが来阪して懇話会が開かれました。私は庖丁を携えて会場へ行き講演の後、庖丁を見せて、特に柄のデザインについて講評を求めました。昔ながらの柄を改良したいと思っていましたが彼氏は「この柄はシンプルで人間工学上最高級のものである」と大いに賛めて頂きました。何だか嬉しい様な、期待はずれの様な気持ちで帰郷したことがありました。

(信田藤次)

#### ■久保田鉄工株式会社(堺製造所)

ほぼ1世紀の歴史を鋳物からスタート、更に機械部門、内燃機関へと発展、今や農業機械をはじめ、各種エンジン、建材、パイプ、建設機械、住宅と多様な業容を誇っております。

6万坪の敷地面積と3000名の人々が働く堺製造所は、昭和12年に操業が開始され、今日あるクボタの原点である事と同時に、昭和の大半を堺と共に歩んできております。又今春には、堺に臨海工場も竣工する予定です。

SADAにひと言……。地元文化との協調性、及び地域生活に密着したデザイン活動を望みます。

#### ■堺刃物商工業協同組合連合会

600年の伝統を持つ堺の包丁は、昔から鍛造、研(刃付)、柄付、卸し、小売り、と分業化され、堺で約280軒、約2000名の人々がそれらに従事し、年240億の売上げを誇っております。

生活様式の多様化、特に食生活の著しく変化する現代、業界は、今までの和包丁のみならず、ステンレス洋包丁、鉄園芸用具、工具等といった分野への進出を計っております。

●SADAにひと言…包装紙、パッケージ等のデザイン指導を期待します。(理事長 福井清忠)

#### ■島野工業株式会社

自転車部品世界一のメーカー。変速機やギア、ペダルなどいわゆる自転車のエンジン部分とブレーキなどいわゆる制動部分の総合メーカー。我国のみならず、世界中の自転車に「シマノ」が使われている。特に、スポーツ車の世界ではブランドイメージが高く、欧米のプロレーサーをはじめ、オリンピック級の選手たちの間で、愛用されるコンポーネントとして有名。ハイファイコンポのように、スポーツ車の大衆化を目指している。他に自動車部品や釣具も製造。

#### ■ダイキン工業株式会社(堺製作所金岡工場)

ダイキンには〈空調〉〈特品冷熱〉〈油機〉〈電子〉〈ロボット〉〈化学〉〈特機〉の7部門があり、それぞれの研究開発を深めるとともに、互いに連携し合いながら技術の複合と取組み、数多くのユニークな製品を発表している。堺製作所金岡工場では、エアコン、海上コンテナ、船用冷凍機、などを担当、生産している。パッケージ形エアコンでは業界ナンバーワンのシェアをほこり、昨年生産累計100万台突破の記録を樹立した。



#### ■大醬株式会社

日本人の繊細な味覚と知恵が約700年の昔、中国から伝えられた穀醬に改良を加えつつ今日の醤油を創造した。主原料は大豆、小麦、食塩で、特有の色、味、香りも麹菌の酵素や種々の微生物の不思議な働きでかもし出される。殊に味は甘、酸、辛、苦、鹹の五味の調和の上に「うま味」の要素のあることが特色だ。何しろ、なにわは名だたる食い道楽。大醬は味の極限を追求し続けた。醤油造りの原理は不変だが、製造技術は日進月歩。その大醬が自信をもっておすすめするのが濃口醤油「王醬」である。

#### ■タマノ井酢株式会社

食酢の起源は古く、日本では大和時代に大陸から堺の港へ渡来し、製造が始められたと伝えられている。それは和泉酢と呼ばれ、日本最古の歴史を持つ食酢である。

タマノ井酢では、この歴史と伝統の街に食酢を作り育て、常に時代のニーズに答えるべく、製品の開発に努力を重ねて来た。お酢の粉末化に成功して「すしのこ」の発表はすでに20年前になる。

タマノ井酢では、この度加熱処理をせず、一貫した無菌システムにより造り上げた「生の酢、三種」を発表。生の酢のライトでさわやかな香りと、ライト・アンド・マイルドな味わいをぜひ体験していただきたい。

#### ■福助株式会社

堺で生まれ創業103年。「くらしに生きるファッション」をテーマに靴下・肌着・外衣・足袋・シューズなどを手がける総合アパレル企業である。主力は品質の良さを自負する靴下と肌着だが、サンローラン・ランセル・ニナリッチ・森英恵・三宅一生などと提携して、カラーやデザインが決め手となるアウターウェア・ドレスシャツ・ストッキングなどのファッションブランドも積極的に展開している。

#### ■ミノルタカメラ株式会社

おしゃべりカメラ「トークマン」で人気を集めたミノルタカメラでは今年2月世界初のオートフォーカス一眼レフ「HI-BIT AF $\alpha$ -7000」を発表して一気に話題をさらってしまった。

光を原点とするたゆまざる技術の研究開発はカメラから事務機へ、そして多くの視覚情報機器を世に送り出している。堺工場では35ミリ一眼レフカメラの組立てを行っている。4年前に新しくなったロゴマーク、ロゴタイプはソウル・バスのデザインによるもの。

#### ■村上敷物株式会社

当社はウイルトンカーペット（織じゅうたん）の製造とフックド・ラグ（手刺織通等）のオリジナル製品と別注品の製作を主とした敷物メーカーで、泉北の敷物団地に本社・工場がある。とくに別注品が得意分野であり、堺医師会館・島野工業など堺周辺をはじめ、最近では、東京のデイズニーランド・東京ヒルトンホテル、大阪の全日空シエラトンホテルなどのカーペットの製作も手がけてきた。注文主の企画やデザインの要請に応えるべく、日々技術の研さんと品質の向上につとめている。

(五十音順)

#### ■堺商工会議所

#### ■堺線香工業協同組合

#### ■三宝伸銅工業株式会社

#### ■柴田会計

#### ■馬場刃物製作所

(S60・3現在 賛助会員数16社)

## 新会員のプロフィール

### 上野富美子

お仲間に入れていただいて、おおきに。  
大阪生まれの、大阪育ち。  
戸籍上は女、仕事上は性別・年齢なし。  
stained grapher・copy writer・secretary・navigator・  
妻・母・おばばの七変化。  
間違いだらけの大阪べんに、腹をたてながら普通のおばば  
になりたくない毎日を送っている、夢多き万年少女です。  
よろしく。

### 岡本安吉

自分で独立して、早18年、昨年秋、大阪を後に、堺市寺  
地町にアトリエを移し、商業写真とグラフィックを頑張  
っています。  
泉州生れの泉州育ちでありながら、少しでも地元の産業に  
と思ひ。これからは、じっくり腰をすえて仕事をしたいと  
思います。

### 桂 智子

たぶん2年間のバリ留学が私にそうさせたのでしょけ  
けれど、必死になって肩ひじ張って服だけ見つめてオートク  
チュールに取り組んでいた或る日突然にふと深呼吸をし肩の  
力を抜いて見たら私の回りにはグリーンがいっぱいの生き  
活きた生活がありました。今楽しい楽しい生活着とライ  
フグッズの物作りに明けかけています。

### 木下義勝

plus one is ……  
多様化・個性化といわれる世の中ですが、  
じつは標準化・均一化が鋭意進行中。  
50年代だ60年代といっても当時をそのまま持って  
きたのではただの時代錯誤  
そこに現代のエスプリをプラスしなければ輝きません。  
1たすと1しかふえないのが数学、でも感受性は

1たすことですっかり変えてしまうことができます。  
こんな気持で商空間を考えている今日このごろです。

### 堺 初美

「好き」が薫じて本業となった、インテリアコーディネ  
ーション、それにステンドグラス。お客様と共に日常を考  
え、快適な空間を作ってゆく喜び。「もと娘さん」も、  
「ずっと娘さん」でいられる心意気で頑張りたいと思います。

### 横田弘文

大阪に来て23年、堺市に住んで10年になります。この間  
いろいろな事がありましたが、最近では関西人になりまっ  
て(?)その住心地の良さにとっぷり浸かっています。40  
才になってからヨットを始め、休日はヨットの上ですごす  
方が多くなっています。 (大丸デザイン室勤務)

(五十音順) (S60・3現在会員数43名)

## デザイン随想

川崎 浩

「使命感と儲けの妥協が工業デザインである」とは、昨  
秋の大阪芸大での日米ジョイント・シンポジウムでの柴久  
庵憲司氏の発言である。使命感というのは理想とするこ  
ろであり、「世のため、人のため」「俺がやらねば誰がやる」  
というべき、いわば崇高な心情である。儲けというのは現  
実の意味である。機能性なり、用途性というか、目的に叶  
っているということ、勿論経済性それ自体「もうけ」であ  
る。

戦後の混乱の時代に育ち、朝鮮動乱、神武景気から万博  
をへて、石油ショックまで、デザインを業とするものは、  
はっきりした目標と使命感に支えられてその才能を発揮し  
今日の隆盛をもたらした。

生活環境が多様化し、価値観の定まらぬ時代、目標がは  
っきり捉えにくく、まして漠とした使命感など誰れも考え  
なくなってきたのではないか。しかし大事なものは、このは  
っきりしない、とりとめないが、情熱のようなもの、憑か  
れたような行為が、今あらためてデザイナーに求められて  
いるということである。

## 堺の新製品フェア '85

堺に事業所をもつ製造業者が新しいデザインとアイデアを競う「堺の新製品フェア'85」(堺市・堺商工会議所・堺特産品協会主催)が、3月7日から12日まで、22社の参加を得て泉北パンジョ広場で開催された。

8日に行われた優秀商品選定会の結果、下記の出展社が表彰されることになった。また、今回から「堺デザイン協会理事長賞」が設けられ、当協会からも選定委員が出席、選定に当たった。

### 堺市長賞

ワニ製作所「ファミリーサイクル」

### 堺商工会議所会頭賞

三宝商会「ホッ床1番パートⅡ」

### 堺特産品協会理事長賞

井藤工具「エレクトロニクスピンセット」

### 堺デザイン協会理事長賞

大陽テクノ工業「ポットアスコット」

### 優秀製品賞

ニッシン「織じゆうたん光彩」

小谷数物「メゾン」

藤屋製作所「剣山 熊野」

アルス刃物「高枝鋏」

ナカバヤシ「ビデオシティ」

池上刃物「超微粒子文化庵丁」

前田製菓「ボンサンススナック」

スーパーツール「ミニチ ユーブカッター」

昭和マツタカ「D。D。」

辻尾パール工業「アンゼエロパール」

なお、期間中、府立貿易館が海外デザイン調査団(当協会の小田理事も参加)を派遣し米英で集めたマタニティ・育児用品、ビジネス・生活用具などの中から、優れた商品約250点を紹介する「世界のグッドデザイン展」も併催され人々の関心をあつめた。

## インダストロピア サカイ '85

堺21世紀計画発足記念事業(昭和64年市制100年記念計画プレビュー)として——「なにわ」経済社会の確立に果たした堺商人の役割の再認識と市内産業の将来に活性を与え、南大阪地域文化の振興をはかる——という趣旨により「インダストロピア サカイ'85」が展示会やシンポジウムを中心に、春・秋に分かれ開催される。

(主催：堺市・堺商工会議所・堺経営者協会)  
(後援：大阪21世紀協会)

### ●パートⅠ

#### 産業フェア

「21世紀の街づくりをおしすすめる

堺の産業技術と情報化」

5月23日～28日

メイン会場：高島屋堺店イベントホール

シンポジウム会場：堺市勤労会館ホール

### ●パートⅡ

#### 文化フェア

「堺の伝統文化「お茶」をキーワードとして

南大阪の文化の振興をはかる」

60年秋季：博物館など大仙公園中心。展示会、シンポジウム、世界のお茶会、世界のお茶即売会など。